

報告書の修正・加筆について

H 委員

P2 (1)に高齢者の社会参加の効果による「**予防医療**」とありますが、使い方が少し違うのではないかと思います。健康・福祉に何度も出てきています。

この委員さんは、予防医療という言葉が好きなのですが、文章の流れとしても、ここは「**医療・介護予防**」が適切だと思います。

「**予防医療**」と言うのは、食生活など生活習慣の改善や適度の運動、早期の健康診断等の個人的な健康管理に対する言葉で、あまり使われていません。

介護保険について関心のある委員さんがいませんでしたので、介護保険についてあまり議論がされませんでした。「地域共生社会」の意味も知らないようでした。私はケアマネですので、介護保険に対する理解を持ってほしかったです。

「**予防医療⇒医療・介護予防**」については私の意見ですので、修正するかどうかは市の方で言葉の確認をして決めてください。

⇒ご指摘いただいた内容を踏まえて、事務局で用語を検討。

「健康づくりや介護予防」とした。

P4 健康・福祉 前文5行目 **関係機関同士**の連携⇒**関係機関の連携****同士**は必要ありません。

P6 (健康福祉部)

P8 地域での

P8 と施設面積の拡大

P9 落ち葉のたい肥化、ビオトープ、高齢者福祉、ボランティア等

P13 指定管理者制度の理解

P18 環境・ゴミの学校(水の学校の市民評価に学んで)

P22 「第五次武蔵野市行財政改革プラン」の実行

P23 【財政、予算】に追加

- ・消費税10%、オリンピック後の経済状況
- ・受益者負担、施設利用料の値上げ検討。

P27 新たな**新**の追加

⇒修正済み

【D 委員】

全体について

各々の項目が細切れの羅列であり、各委員が何をひとまとまりの意見として重点的に伝えようとしたのかがわかりにくいと思います。

例えば、各委員の「伝えたいこと」の文章があり、そのあとにその人が掲げた項目が並んだ方が、策定委員が読んだ時に、その人の主張の全体を立体的にとらえることができるのではないかと思います。

⇒第4回にて議論

個別について

・「子ども・教育」の頭の文章に、「小中一貫教育」が「課題」として掲げられていますが、市民会議では後にあるように「教育内容と学校の建て替えのことは分けて検討すべき」という意見がありました。それは、「十分な議論・検討のないまま小中一貫教育を進めることには賛成できない」という趣旨のご意見だったと思いますが、「小中一貫教育」を「課題」とだけ表現すると、それと異なるメッセージが策定委員に伝わるのではないかと思います。

⇒「小中一貫教育のあり方検討」に修正済み

・「文化・市民生活」の頭の文章に、「先進都市として様々な文化活動を促進するなど武蔵野プライドを確立・醸成することも重要である」とありますが、文化活動の促進は「豊かなまちづくり」の一環としても語られていて、必ずしも「武蔵野プライド」と直結する内容ではないのではないかと思います。後にある「武蔵野プライド」を提案されている委員の書かれている内容とも違いがあるように思います。

⇒ご指摘いただいた内容を踏まえて修正予定

・「ワンミリオンサポート」は、「施設」ではなく、「場をつくり維持する支援」としてください。

・「企業・産業」の「企業」は「起業」では？

・「緑・環境」の「太陽光の課題」には（負の側面も意識する）と加えてください。

・「都市基盤」ですが、「歩行者を大切にすると「歩」を入れてください。

⇒修正済み

・「行財政」の頭の文章に、「財政負担が大きい学校施設の整備の重要性」とありますが、市民会議で話されていた内容は上記のようなことだったのではないかと思いますので、話されていた内容とこの表現の間に齟齬を感じます。

⇒「学校施設の整備は小中一貫教育の議論と区別して進めるべきとの指摘があった」に修正済み

「長期計画市民会議報告書(案)」(以下「原案」という)に対する意見

B 委員

1. 原案修正が必要と考える項目とその理由

(1) 「まとめ」や「～の必要がある」「～ではないか」等の結論的表現は、適切でないの
で使わないようにすべきである。

- ・本市民会議は、非常に限られた時間と、あらかじめ用意された進行方法やグループワークが原因と考えるが、原案にもあるとおり「合意形成を目的としない」意見交換会であったと思う。
- ・互いに意見を出し合って、その是非を検討し、一定の結論を得ようという本来の意味での「討議」は皆無であった。そのように割り切って意見を述べたが、他委員の意見に対して質問や疑義をだしたり、自分の意見への反論を期待するようなことは、皆さん出来なかったと思われる。
- ・したがって、以下の項目について、修正すべきである。

- 「1. 市政全体を俯瞰して重点的に議論された点」の(1)～(3)の全て
- 「2. 各分野のグループ討議内容」の各分野ごとの前段部分

⇒第4回にて議論

(2) 意味が各人ごとに解釈されかねないとか、雰囲気は分かるが厳密な定義がない等、曖昧な言語・表現は避けるべきである。

- ・長期計画は市の行政活動を定める計画であり、広く市民の協力を得られようなものを目指すべきである。「用語説明」で足りるレベルのものは別として)
- ・原案のなかで、特に次の2つの言語表現には疑義があり、修正すべきと考える。
(委員個人の想いで発言している部分でなく、まとめ的部分の表現について)

①「次世代」の使い方

「多世代交流」「世代間のバランス」等の使い方は正しく、分かりやすい。それに比べ、5年～10年を対象期間とする長期計画において、前提や条件抜きの「次の世代に向けた」「次世代につなげる」「次世代に継ぐ」等の表現は、意味不明となり、場合によっては誤解を招く。行政計画は、少なくとも「現世代、全世代」の市民のための幸せを目指すものでなければならない。

②「武蔵野市プライド」「武蔵野シチズン」について

武蔵野市を愛する心を持ってほしいと願うし、市民性・主権者意識を高めることには賛成である。しかし、それをプライド(誇り)や狭い郷土愛のようなものとされかねない表現、まして行政がそれらを確立や醸成するというようなことには賛成しかねる。全体として「重点的に議論」されたわけでもないのに、不要である。

(3) その他、事実経過の表現と評価について、分類の間違い等について、修正する。

⇒第4回にて議論

2. 具体的な原案修正の提案

はじめに の部分

- ・全体共通であるが、未来を展望する長期計画であればなおさら、歴史性や連続性、期間計算の分かり易さから、年・年度は西暦（和暦）の表記に統一してほしい。

⇒「和暦（西暦）」での表記を原則とした。

- ・長期計画が条例に基づくものとなったのは、2012年以降であるので、補正を。

⇒「※平成23年（2011年）12月制定」を挿入した。

市民会議における議論について の部分

- ・タイトルを、「市民会議における議論経過について」とする。

⇒修正済み

- ・経過をスケジュール表で示す。（配布された確定スケジュール表を簡潔に整理して）

⇒巻末に参考資料として掲載

- ・グループに分かれて討議をただけで、「グループ討議」自体に意味があったわけではないので、余計な記述は省く。
- ・以下、原案を基にした修正文案を示す。

6月18日の第1回会議から7月25日の第4回会議まで、以下のとおり開催された。

【スケジュール表挿入】

限られた時間で行われた本市民会議においては、全体としての合意形成は目的とせず、事務局が予め提示した長期計画各分野における「次の世代に向けたビジョン・ありたい姿」「現状と課題」「ビジョン・ありたい姿を実現するためには」というテーマ設定にそって、グループ討議において、各委員がさまざまな立場から多様な意見を出し合った。なお、市民会議委員のほかに「市民会議サポーター」がグループ討議に進行役として参加された。

本報告書は、全4回の会議における活発な意見交換を通じて出された内容をまとめ、今後の策定委員会の議論の参考とするべく、市長に報告するものである。

⇒第4回にて議論

1. 市政全体を俯瞰して重点的に論議された点 の部分

- ・「3つの項目にまとめた」とあるが、誰がまとめたのか不明であり、このような結論・まとめに至ったという認識にはなく賛同できない。
- ・以下のように、原案を全面的に改めてほしい。（修正文案を示すものではない）

- 1. のタイトルを「市政全体・長計全体に関する議論」とする。（2. のタイトルは「各分野に関する議論」とする）
- 2. の記述のように、会議で出された意見を列挙する。その際、分類できるような適当な項目があれば分類する。

⇒第4回にて議論

2. 各分野のグループ討議内容 の部分

- ・意見の列挙でよいと思う。ただし、各分野ごとの包括的な表記の部分については、「求められる」とか「取り組む必要がある」といった結論・まとめの表現と、あげられた意見の特徴的なものを表現したものの2種類がある。統一性がないうえに、結論的なまとめにするにはさらに議論が必要であるとする。
- ・以下のように、原案を改めてほしい。

○2. のタイトルを「各分野に関する議論」とする。

○原案の各分野ごと包括的部分を修正してほしい。(修正文案を示すものではない)

「Ⅰ健康・福祉」、「Ⅱ子ども・教育」、「Ⅲ文化・市民生活」については結論的な記述を改め、「Ⅳ緑・環境」「Ⅴ都市基盤」のような、意見記述とすべきである。

⇒タイトルは修正済み。ご指摘の3分野の包括的な表記の部分については、修正予定。

- ・各意見について、現在気づいた修正点は、以下のとおり。(もう少し読み込んで、あれば当日に)

○P 7 前段「小中一貫教育」の「課題に取り組む必要がある」という意見があったという認識はない。上記の包括的部分の修正のなかで改めてほしい。

○P 8 の「■学校教育」に分類されているもののうち、学童保育・学童クラブに関するものは、「■子育てしやすいまちづくり」のほうに分類すべき。(学校併設が多いが、機能は学校教育ではなく、児童福祉の領域である)

⇒修正済み

以上

【J 委員】

■ 市民会議から策定委員会へ託したいことに関するコメント

複数からの意見としての要素をみると、

- ① 市民意識、つながり (2*3*4*5*7)
 - ② 市民参加、対話 (1*2*3*4*8*9)
 - ③ シニアから若者に (3*6*7) あたりのようです。
- (数字) は順に 1 から 10 を付しました。

①の市民意識、つながりをこれらは醸成するには、②の参加、対話の仕組みを作ることが必要だと思います。無作為抽出は、時間や都合から、シニア参加が多いようだと意見は偏るおそれがあります。市民会議委員も、コミセンなど市政に関わり、感心がある方が多く、活発な議論は出来ましたが、関わりがない住民は、どんな意識でいるかは、気になるところです。

私のコメント③【未来市民参画】は、学校、高大生、子育て世代の声を意図的に聴く、ポジティブアクションが必要と考えました。①の武蔵野プライドは、武蔵野のよいところを再認識し、世代間交流、相談、安全、参加、居場所など多機能拠点として、コミセン、公園、公共施設が議論、共有の場として機能して行くことを期待しています。そして、②の、市政の力点や、財政はシニアから若者に傾斜配分するとともに、一方で、シニア活躍、特にアクティブシニアが活躍する場の提供を、産官学連携で実現するところに、「少子高齢化社会取組み先端都市武蔵野」のヒントがあると考えています。

上記補足コメントは、報告書冒頭の、議論の整理で、わかりやすく書かれていました。私の 3 つのポイントは、そちらに全て含まれています。

■ その他のコメント

- 6分野のコメントは、短文ないし、キーワードで、本人以外は、わかりにくいと思います。ただ、策定委員会のヒントにはなるので、修正して掲載。
- 冒頭の整理は、まとまっていますが、整理した方の意志が含まれており、総意とは言いにくいようです。
→何らかの総括的なものは必要です。ただ、合意めざしてないので、明日の合意は厳しいかも知れません。むしろ、異論併記でもかまわないかと。
- 200 字コメントが、一番いいことを現しており、それをそのまま掲載して、冒頭の整理は、もう少し、緩めに、抑える、たとえば、整理の前提として、私が送った、10 人の意見分野の緩い整理を掲載。合意できる精々かも知れません。

- 26 から、策定委員会ですが、いきなり、市民会議報告をするわけでないでしょうから、明日の議論を踏まえて、各自の 200 字を、300～400 で再提出いただいて、報告書に掲載する手はあろうかと思います。

【J 委員】 7/25 追加分

今日の二時間で纏めるのは、至難の技でしょうが、武蔵野市を、よりよくする市民自らの意見集約です。丁寧に聞くことは大事ですが、最大公約数の整理と、少数意見の掲載、よろしく願います。

- 200 字コメントに、各委員の想い、願いが込められていると思います。これを掲載頂きたい。

- 総括は必要で、各委員コメントのキーワードを構造的、体系的に整理したものをつける、あたりでしょうか。

まとめていただいた「重点的に議論された点」は、議論の方向性を示すものと謝意を示すところですが、委員により、受けとり方に違いが有ると感じました。合意部分と、こんな意見も、との併記いただけるとありがたいです。

- 「武蔵野プライド」については、皆様から、ご意見もいただいています。

いろんところで、脈々と受け継がれた、市の特長への敬意が、誇りとして、市民意識に定着すれば、定住し、産業、雇用、WLB など、さらに発展させたいという行動に自然に繋がり、また、市民自らの「お勧め」として魅力の情報発信など、地域活性化のカギになる概念と思います。

シチズン意識は、市民として市政を当事者として考え、行動するニュアンスかと思います。もちろん民主主義にはとても大事ですが、今まで住んでいただけの住民には、ハードルが、高いかと思い、取っつき易さで、プライド概念を上げました。合意いただけなくても、そんな声もあったと策定委員会に伝えていただければ、ありがたいです。